

こども心身だより



第 154 号 - 平成 31 年 1 月発行

巻頭言

新年あけましておめでとうございます。

新しい年を迎える号では、毎年この巻頭言に特に苦勞します。それはおめでたい新年を迎えるのに、世間一般と異なる「異見」を書くと、どうしても現状否定になり、新年から適切でないと、私のもつ常識的「意見」によっています。

そこで今年は明るい話題として昨年のことですが、12月10日にスウェーデン・ストックホルムで開催されたノーベル賞授賞式に和服で出席された「本庶佑先生」に関係することから始めます。これは世界で最高の権威をもつ賞であるのは当然ですが、最も価値を置くのは日本人だと言われています。日本のマスコミは賞の意味や説明よりも、報道に値しないことを興奮して書きまくり、ストックホルムでは外国人の記者から、その数の多さから取材の異常さまで嘲笑されているのです。緊迫した世界情勢の中で、誠に「平和ぼけ」した国の姿がここからも見えてきます。

日本人は「権威」が好きな民族で、これは昔から「お上の言うことだから」「お上に逆らえない」といった言葉で表されるように、日本の精神風土が生んだもので、功罪半ばです。学校でも国公立が私学よりも尊ばれ、病院でも国・公立病院の方が私立病院よりも安心できるという思いも同じでしょう。ですから、世界で最高の権威があるノーベル賞にことのほか価値を置くのは当然なのです。

少し分野は違いますが、国際連盟を権威あるものと崇め奉っているのも「おめでたい日本人」らしいのですが、この組織は歴史的にみても現状からも、決して日本人の考えるようなものではなく、国益や利権が絡み、特定のイデオロギーが渦巻く組織です。少し世界情勢や歴史を見ると判ることも、政治家も含め多くの日本人は世界や歴史を厳しく見ないので判らないのです。ノーベル賞でも平和賞は多くの場合、胡散臭さがあり、戦争を始めた者が、それを収めたことでもらえると揶揄される時もありました。平和賞をもらいたければ、戦争を始めればよい！とまで言われています。

冒頭から例によって話題が逸れましたが、本庶先生の「免疫によってがん細胞を攻撃する」仕組みの解明は、私たちの現在最も気になる「がん治療」に直接結びつくもので、よけいに関心もたれました。既に一部が実用化されていることも、よけいに身近に感じました。

日本はこのノーベル賞で世界的にも受賞者が多い国で、現在は第7位です。もちろん有色人種の国では断トツの受賞者数です。西洋基準で動く現代社会では、今も白人は根底に人種差別をもつ者が多く、明治時代には外国の公式文書でさえ日本人は「黄色いチビ猿」と書かれていましたから、徹底的に差別を受けていたのです。「名誉白人」と日本人は言われていたこと自体が、有

色人種の差別が公然と行われていたことを示します。野口英世や北里柴三郎、鈴木梅太郎の当然受賞すべき3人がもらえなかったのもこれを示しています。だから、人種差別が無ければ、本当は5位ぐらいの位置にいるはずです。ちなみに世界一は米国で、次が英国ですからアングロサクソンの凄さをココでも感じます。次いでゲルマン民族のドイツ（アングロサクソンとゲルマン民族は親類）、フランス、スウェーデン、ロシア、スイスが続き、次が日本です。反日が国是で何とか日本人を貶めたいと必死の近隣二国は、今や軍事的に超大国となり、人口が日本の10倍以上の某國ではわずか5人。もう一つの国に至っては0ですし、この国は以前に「フェイク発見」を発表して墓穴を掘りました。

この輝かしい、特に近年の受賞者ラッシュとも言える日本の状況も、このまま続かないという意見があちこちで言われています。もちろん、未来予測ほど当てにならないものものないのですが、それなりの理由があります。つまり、ここまで頑張った日本人はすべて貧しい時代に育ち、生活してきた人々の凄さではないのか、ということです。現代日本は生れ落ちた時から物に恵まれ、苦しい思いを子どもにさせず、学校では「わがままを“自由”」「困った言動は“個性”」と持ち上げ続けてきたのです。今やスマホ片手にゲームや無駄な通信にうつつをぬかし、地道な勉強よりも見てくれを大事にし、安易な生活に浸りきった世代が、現在の開発途上国や貧しい国の厳しさの中で育った者に太刀打ちできなくなる日が来るのは、遠いことでないと思います。その上、日本語もまともに話せない/使えない小学生に国際化などと英語を習わせ、直ぐにタブレットを使わせる教育を小学校で行うのですから、かなり以前からコピペが当たり前の大学生に、卒業後の先進的研究を期待するのは無理でしょう。破れたGパンをはき常にスマホ片手で、母国語もまともに話せず、絵文字入りの簡単な文でデジタル通信する若者（バカ者）を見ていると「未来のノーベル賞受賞者など皆無ではないのか？」と思うのはアナログ人間でガラケーしか使えない老人故でしょうか？

やはり新年から明るい話題になりませんでした。老人の繰り言で当たらないことを祈ります！（富田）

用語解説 「就労移行支援」

発達障害、精神障害の方たちや、引きこもり状態から復帰していく途上の方たちは、社会に出て自立していくことに大きな不安があります。就労移行支援は障害者総合支援法を根拠とする、こうした方たちのための職業訓練制度です。現在多くのNPO法人による事業所がありますが、相談から始まり、職業訓練、職場体験、就職活動という段階を踏みながら職に就くという流れはほぼ同じです。

どの事業所が良いかはハローワークの相談窓口にお問い合わせたり、実際に見学に行き、自分の目で確かめることをお勧めします。

定例学術研究会

平成 31 年は『発達障碍児の自立を支える社会資源』を年間テーマといたします。

発達障碍（発達の偏り）の存在が学習困難ばかりでなく、心身や行動上の問題にも影響する場合がありますという認識が高まり、近年では多くの機関でさまざまな治療・支援対応が行なわれています。

私たちはこれまでの経験から、当面の問題解決を目指すだけでなく、子どもの成長段階で生じる問題や社会資源での取り組みを学び、発達障碍児の将来（自立/社会参加）を見据えた支援について考える機会にしたいと企画しました。各領域の第一線でご活躍中の先生方を講師にお迎えいたします。

各日程の講師・演題等の詳細は現在検討中です。詳細が決まり次第、本誌およびホームページにてご案内いたします。

〔開催日〕 原則として第 2 金曜日の 19:00～20:30

〔会場〕 エルおおさか

〔参加資格〕 子どもに関わる専門職の方、大学生・大学院生（守秘義務を有する方）

〔参加費用〕 通年参加（12,000 円／年）を基本としますが、会場定員に余裕がある場合は単回参加（3,000 円／回）も受け付けます。必ず事前にお申し込みの上ご参加下さい。

〔参加申込〕 参加をご希望の方は、必ず事前にお申し込みをお願いいたします。

【第 359 回印象記】

本年最後の研究会は、中野こども病院理事・院長の小児科医木野稔先生に「小児科プライマリケアに於ける夜尿症診療」についてお話して頂きました。夜尿は小児の 10%くらいに見られますが、重症感がないためか受診率の少ない疾患です。確かに自然治癒も多く、発達の一段階と考えればそれだけのものですが、中には心理的な要因や将来の器質的疾患に繋がるものもあり、また夜尿があることが子どもによっては精神的負担になっている場合もあるので、一定の注意が必要です。原因としては夜間多尿、睡眠覚醒障害、膀胱蓄尿量が少ないことなどが考えられますが、心理的要因の関与とともに、ホルモン疾患のような器質的疾患の除外が不可欠です。また下部尿路障害のために正常な排尿反射による排尿調節…膀胱圧と排尿括約筋の協調運動…ができていない場合は、腎機能障害に繋がる可能性もあるので要注意です。そのために、腎エコーによる解剖学的異常の検索とともに、尿路の機能的検索も有効であると話されました。

治療としては、内服はあくまで補助的であり、基本的習慣を身に着ける生活指導が最も必要であると、すなわち小児科医療は子育て支援であることを強調されました。（Y. Y）

第 11 回こども心身セミナー

今年のこども心身セミナーは客員講師に岡田俊先生（名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科准教授・児童精神科医）をお迎えし、以下のような内容で開催します。

- 1) 発達障碍の精神医学—併存症とその表現をめぐって
- 2) 発達障碍のある子どもの育ちと育みを支えること

毎年好評の客員講師を囲む会、セミナーのテーマに沿った映画上映、自律訓練法の体験、笑いヨガなどは引き続き実施予定です。

会場は例年と同じく、交通の便が良く、大阪湾の夜景が美しい研修専門の都会派ホテルです。ホテルが満室になる可能性がありますので、是非、お早目にお申し込み願います。

【参加要項】

対象；医療関係者・教育関係者・心理関係者と専門の大学院生等

日時；平成31年5月25日（土）～26日（日）1泊2日

会場；ホテルフクラシア大阪ベイ（大阪南港）

（旧ホテルコスモスクエア国際交流センター）

新大阪から約30分（大阪メトロとサークルバス利用）

関西国際空港から約50分（リムジンバス利用）

費用；35,000円／1泊2食付

（当研究会会員及び過去のセミナー参加者は32,000円）

原則としてツインルームでの受付となります。シングルルームは数に限りがありますので、お早目にお申し込みください。（シングルルームの場合、5,000円追加となります）。

※日本小児科学会、日本心身医学会の認定医点数と日本小児科医会「子どもの心相談医」の研修更新点数が認定されます。

案内チラシ（申込書付）をご希望の方は、こども心身医療研究所までお問合せください。

詳細はホームページでもご案内いたします。

ご寄付をいただいた方々（平成30年10月～11月）

向山クリニック様 他若干名様

私たち社団法人では多くの方々のご理解やご協力に支えられて活動を続けております。これからもよろしくお願い申し上げます。

ご寄付振込先◆郵便振替 000930-6-98381

◆銀行振込 三井住友銀行 大阪本店営業部 普通 3180573
りそな銀行 堂島支店 普通 2310713

掲載内容についてのお問合せは

一般社団法人 大阪総合医学・教育研究会 こども心身医療研究所
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-4-6 Tel.06-6445-8701 Fax.06-6445-7341